

## 弟子の派遣

ルカによる福音書 10:1-12,17-20

(そのとき、) 主はほかに七十二人を任命し、御自分が行くつもりすべての町や村に二人ずつ先に遣わされた。そして、彼らに言われた。「収穫は多いが、働き手が少ない。だから、収穫のために働き手を送ってくださるよう、収穫の主の願いなさい。行きなさい。わたしはあなたがたを遣わす。それは、狼の群れに小羊を送り込むようなものだ。財布も袋も履物も持って行くな。途中でだれにも挨拶をするな。どこかの家に入ったら、まず、『この家に平和があるように』と言いなさい。平和の子がそこにいるなら、あなたがたの願う平和はその人にとどまる。もし、いなければ、その平和はあなたがたに戻ってくる。その家に泊まって、そこで出される物を食べ、また飲みなさい。働く者が報酬を受けるのは当然だからである。家から家へと渡り歩くな。どこかの町に入り、迎え入れられたら、出される物を食べ、その町の病人をいやし、また、『神の国はあなたがたに近づいた』と言いなさい。

(13-16節、省略)

しかし、町に入っても、迎え入れられなければ、広場に出てこう言いなさい。『足についたこの町の埃さえも払い落として、あなたがたに返す。しかし、神の国が近づいたことを知れ』と。言うておくが、かの日には、その町よりまだソドムの方が軽い罰で済む。」七十二人は喜んで帰って来て、こう言った。「主よ、お名前を使うと、悪霊さえもわたしたちに屈服します。」イエスは言われた。「わたしは、サタンが稲妻のように天から落ちるのを見ていた。蛇やさそりを踏みつけ、敵のあらゆる力に打ち勝つ権威を、わたしはあなたがたに授けた。だから、あなたがたに害を加えるものは何一つない。しかし、悪霊があなたがたに服従するからといって、喜んではいない。むしろ、あなたがたの名が天に書き記されていることを喜びなさい。」

## 説教

きょうの聖書箇所は福音じゃないですね。ほかの方はどう言うのかは知りませんが、少なくともわたし達は福音とは受け止めません。読み飛ばしてもかまわない福音書の一部です。3年前の説教(2013.7.7)では理屈っぽく説明をしていますが、わたしのいいたいことは、このルカ福音を引用して説教する牧者(神父や牧師など)は信用するな、ということです。

きょうの朗読箇所をよく見てみると10章13-16節は抜かしています。ここはあんまりにも支離滅裂だから朗読から省いたという配慮があるのでしょうか。だったら聖書日課じたいから除いてしまえばいいのにともおもいます。

いまわたし達が聖書としている福音書は四つです。きょうの弟子の派遣の記事は共感福音書(マタイ10:1-・マルコ6:7-・ルカ9:1-、10:1-)にすべて記述されています。ルカだけは12人の派遣(9:1-)と72人の派遣(10:1-)と同じような内容を二回記載しています。なんで福音書が四つあるのか、また、正典聖書に採用されなかった福音書も数多くあります。なぜなの、いったいどうしてという疑問には数々の説明がなされています。わたしの今の考えでは神さまはいろんな事(現状の世界のありさまなど)を見通して福音を複数残すようにしたんだろうな、それをどのように受け止めていくかをわたし達に考えさせてくださったのだから、という受け止め方です。

さて、きょうも礼拝は「派遣のことば」でおわります。

**行きなさい。わたしはあなたがたを遣わす。**ルカ10:3

きょうのみことばで言えばこのようになります。しかし、前後の文脈からしてきょうのルカ福音書のこの箇所を根拠に派遣のことばを受け入れることはできません。

**あなたがたに耳を傾ける者は、わたしに耳を傾け、あなたがたを拒む者は、わたしを拒むのである。わたしを拒む者は、わたしを遣わされた方を拒むのである。七十二人は喜んで帰って来て、こう言った。「主よ、お名前を使うと、悪霊さえもわたしたちに屈服します。」イエスは言われた。「わたしは、サタンが稲妻のように天**

から落ちるのを見ていた。蛇やさそりを踏みつけ、敵のあらゆる力に打ち勝つ権威を、わたしはあなたがたに授けた。だから、あなたがたに害を加えるものは何一つない。しかし、悪霊があなたがたに服従するからといって、喜んではならない。むしろ、あなたがたの名が天に書き記されていることを喜びなさい。」ルカ 10:16-20

派遣された 72 人が帰ってきて悪霊屈服と報告しています。それに対するイエスの返事が記録されています。これをイエスが 72 人の弟子たちを諫（いさ）めていると受け止めるのは解釈としては窮屈です。悪魔が天から落ちこちてきたって喜ぶな、むしろ天に名前があることを喜べ、ということイエスのほんとうのことばと受け止められません。

むしろ、イエスが有頂天になっている弟子をたしなめるとしたらこう言うのではないでしょうか。

（一行はカファルナウムに来た。家に着いてから、イエスは弟子たちに、「途中で何を議論していたのか」とお尋ねになった。彼らは黙っていた。途中でだれがいちばん偉いかと議論し合っていたからである。）

イエスが座り、十二人を呼び寄せて言われた。「いちばん先になりたい者は、すべての人の後になり、すべての人に仕える者になりなさい。」そして、一人の子供の手を取って彼らの真ん中に立たせ、抱き上げて言われた。「わたしの名のためにこのような子供の一人を受け入れる者は、わたしを受け入れるのである。わたしを受け入れる者は、わたしではなくて、わたしをお遣わしになった方を受け入れるのである。」マルコ 9:33-37

行きましょう、主の平和のうちに。

わたしの名のためにこのような子供の一人を受け入れる者は、わたしを受け入れるのである。いちばん先になりたい者は、すべての人の後になり、すべての人に仕える者になりなさい。

わたしたちは派遣のことばをこのように受け止め、今週も主の平和のうちに派遣されていきます。

-----